

ミチタネツケバナ (道種漬け花)

名前の意味^{いみ}：道ばたに生えるタネツケバナの意味。タネツケバナは田んぼなど湿^{しめ}ったところに生える。

分類：双子葉類、アブラナ科、タネツケバナ属

(アブラナ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：アブラナ、ダイコン、ワサビ、カブ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた。

分布：北海道、本州

原産地：ヨーロッパ

特徴：地面を丸くおおまる味のある小葉^{しょうよう}からなる葉、小さい白い花^{はりじょう}、針状の実

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：4枚、離弁^{りべん} (花びらが1枚ずつ散る)

花の時期：3—5月

見分け方：タネツケバナは、茎^{くき}にたくさんの葉があり、花が咲く時、根元に葉がない。

見つけやすさ ★

見分けやすさ ★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)